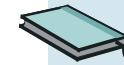


## この本と私



「にぎやかな天地」(上・下) 宮本輝 著



中央公論新社

主人公が「日本の発酵食品」をテーマにした豪華限定本の編集依頼を受けるところから話が動き始めます。主人公を含め、彼を取り巻く人々は、自分の大切な人を色々な理由で失っていて、その想いを奥深くに残している。主人公は、その人々と関わっていくうちに、自分の中にあつた「憎しみ」が、いつの間にか変化し始めていることに気がつき行動を起こす。発酵食品は、そのまま食べるよりも色々な微生物の働きにより、もつとおいしいものになる。人の心も色々な作用を得て変わってゆくのかも知れない。食品は発酵することによって、よりおいしく、そして体に良いものになる。しかし、そのまま放っておくと、発酵が腐敗となり、体に、そして味も良くないものになる。この本にはいろいろな方法によって作られた「おばあちゃんのぬか漬け」から「枕崎の鯉節」など、おいしそうな食べ物(ほとんどが発酵食品)がたくさん登場し、話の流れに引き込まれ、「おいしそう。どんな味? 食べてみたい!」と、思いながら読み進めた本でした。そして私は34才。初めてぬか漬けを漬け始めました。

扶紀子